

## 第一回宿題委員会報告

世話人 山 本 陽 三

第一回宿題委員会は、一〇月三〇日午後五時半より、私学会館で、八木佐市、高山隆三、高橋明善、安原茂、山本英治、宮川実の各氏及び山本陽三の七名出席、松本通晴、菅野正、牧野由朗各氏よりの御意見をいただき開催され、次のとおり、決定いたしました。

### ① 宿題委員の追加について

経済史学の分野からの委員が欠けていたので、岩本由輝氏(山形大)をお願いすることにする。

### ② 宿題委員の任期について

テーマが定まり、それに基づいて宿題委員の選出という立て前なら、そのテーマの期間(恒例として二年)務めるべきだが、本年は、宿題委員の方が決まり、テーマも前年度を踏襲する空気なので、一応、一年間と了解して出発する。

### ③ 宿題委員会の役割

運営委員会が、来年度のテーマを決定して、それに適する宿題委員を選出し、その課題を深める研究会の企画運営を行なうのが宿題委員会の本来の仕事である。しかし、今年度は、宿題委員会が、来年度のテーマ(案)も含めて運営委員会から諮問されたと了解する。したがって、本年度の宿題委員会の役割は、

- I 来年度の共通課題案を運営委員会に答申してその決定を待つ
- II その決定に従って、研究会を企画運営する

の二点と了解する。

④ 来年度の「共通課題」について

1. 本年度の「村落生活の変化と現状」は、その副題「生活破壊」の、とくに「破壊」をどう理解するかで議論がなされ、「村落生活」をどういう視点から、どう理解するかについて、十分な討議がなされなかった。

2. 来年度の課題は、本年度の課題を十分踏まえたうえでなすとすれば、「村落生活」をどのような視点から、どうとらえるかを明らかにすることから宿題委員会の仕事は始めねばならぬ。

3. 以上から、一時間ばかり討論が行なわれたが、この「村落生活」をどう理解するかは、優に研究会のテーマたりうる大きな課題であるので、第一回研究会でこの点を討議し、その討議の中から、来年度の共通課題を決定する。

4. したがって、結論は、

Ⅰ 来年度の共通課題の主題は、

「村落生活の変化と現状」とし、

Ⅱ その村落生活の、どの部分(局面)を主としてとりあげるのか、つまり本年の「生活破壊」にあたる副題をどう付けるかを、第一回の研究会の結果に委ねる。

⑤ 第一回研究会の持ち方

期日 一月二日(土)午後一時より

場所 東京 ― 会場未定 ―

課題 「村落生活」概念の明確化と取りあぐべき局面の限定

発表者

以上のことから、なるべく、明確に、諸視点からの

「村落生活」概念規定を提示して討議するのが望ましいということ、次の三つの発表を行ない、討議する。

Ⅰ 昨年度の研究会および大会までの成果を「村落生活」概念規定に関してとりまとめた報告

(報告者、昨年の宿題委員の中から一人)

Ⅱ 経済学の視点から

高山隆三氏(慶応大)

Ⅲ 農村社会学の視点から

(西部から一人) 木下謙治氏(山科大)

以上のようになりましたので御報告申し上げます。なお、一月二日の研究会には、ぜひ多数御出席下さい。御欠席の方は、ぜひ、御意見を寄せいただきたいと思えます。なお、御送付先は、事務局との話し合いで、宿題委員の連絡は、山口大学の山本陽三の方でいたすことにしましたので、

〒七五四 山口市吉田 山口大学文理学部社会学研究室

山本陽三

宛にお願い申し上げます。